TACトップランナーズJA

過去の大会（2008～2016年）で3回以上JA表彰を受賞したJAのうち、高いレベルの活動を維持しているJAを表彰しました。

TAC Top Runner JA

島根県　JAしまね

地域の課題にJAが総合力発揮

2015年3月にJA合併し県下1JAとなったが、これまで旧JA単位で6回、合併後も2016年大会でJA表彰を受賞している。担い手の所得向上に向けて活発な訪問と迅速な情報共有をすすめ、TACミーティングでの施策の検討および担い手への提案を着実に実践し、成果を上げている。中山間地での集落営農組織の組織間連携の仕組みづくりやTACが独自に作成した法人化マニュアル、関係部門・関係機関と連携した経営改善チームの立ち上げなど、地域の課題解決に向けJAが総合力を発揮して継続的に対応していることが、全国の模範になる活動と評価された。

担い手向け TAC通信表彰

TACが担い手を訪問する時に配布する「TAC通信」のコンテストを開き、優秀なJAを表彰しました。最優秀賞には三重県のJA三重中央が選ばれ、優秀賞は滋賀県のJAグリーン近江と兵庫県のJAたじまが受賞しました。

JA表彰

①若手農業者や農業法人への提案内容とその成果②TAC活動の事業への貢献――が優れた5JAを表彰しました（最優秀が全農会長賞）。

JA表彰　全農会長賞
福岡県　JAふくおか八女

訪問活動による聴き取りや「法人の経営意向調査」などに基づき、担い手の課題解決に取り組んでいる。農業法人の経営を"見える化"する「法人の10年運営プラン」をはじめ、土壌分析や園芸品目の導入、労災保険への加入、融資提案など総合的な対応で、担い手との信頼関係を構築した。新規就農者には農地確保や地域・部会組織との関わりなどでフォローを徹底。また、TACが中心となって「農業者の所得増大」「農業生産拡大」の具体的な要望をとりまとめ、JA自己改革の一環として「農業生産基盤強化支援事業」を立ち上げ、担い手の支援体制を強化している。

JA表彰
茨城県　JA常陸

農業所得の増大と、雇用確保のため労働時間の平準化を求める担い手に対し、新規作物としてケールの導入を提案し、産地開発にも善手した。契約栽培による計画的な販売で、農関期の収入源確保を実現。JAの総合力を発揮し、生産導入から販売まで一貫して取り組んだ。また、食用甘藷の産地を活性化するため、他部門・関係機関を巻き込んだブランド化プロジェクトを創設。その結果、JA内のTAC活動への理解が向上し、部門間連携が促進されている。さらに、法人化支援の対応を強化したことで、TACへの相談の幅が広がり、JA内の人材育成にも寄与している。

JA表彰
石川県　JA松任

農地集積により栽培管理面積が増え、作業管理や収益確保に課題がある担い手のため、モデルとなる5法人を設定し、関係部門・関係機関と連携して取り組みメニューを提案。新技術導入による施肥改善や作業の省力化、ICTによる作業管理の"見える化"などの取り組みにより、農業経営の改善につなげた。担い手法人との打合せが定例化しており、「JAとの連帯感が強まった」との声があがるなど、信頼関係が強化されている。また、圃場集約の調整や地域での農産物のPR、農作業事故の防止、税務支援など、担い手の課題解決に多角的に貢献している。

JA表彰
滋賀県　JAレーク大津

JA自己改革の一環で、新たな都市型農業を展開していくため、園芸品目の生産拡大に関係部門・関係機関と連携して取り組んだ。タマネギ、ジャガイモ、ニンジンなど、カレーによく使う5品目を「華麗なる大津野菜」と名付け、TACが生産から出荷までの指導を行っている。農業所得の増大に加え、担い手が安心して作付することができ、信頼関係を構築していることが評価された。また、イチジクのポット栽培による特産品の産地育成や販路拡大、厳害対策、農機シェアリースなど担い手への個別事業提案にJAが一体となって取り組み、事業実績の改善にも成果をあげている。

JA表彰
愛媛県　JA西条

訪問を望む幅広い声に応えようと訪問先を拡大し、専任TACも設置して担い手への対応を強化している。水稲を作付けする担い手からは、出荷コスト軽減や省力化を望む声があったため、フレコン出荷を提案。労働時間の短縮や人件費の削減につながり、担い手の満足度が向上した。また6次産業化にも取り組み、地元の特別栽培米を原料にした新酒を開発、地域活性化に貢献した。農業所得の安定に向け、加工用タマネギの産地化を進め、播種から出荷までの支援体制を整備。役員が担い手を訪問し、課題解決に向けた対応策を提案することで面積拡大を果たしている。

JA特別表彰〈事業承継部門〉

率先して事業承継に取り組み、「事業承継ブック」の活用や、部門間連携の実践など優れた活動を行う2JAを表彰しました。

JA特別表彰（事業承継部門）
岩手県　JA岩手ふるさと

これまでJAに寄せられていたが、棚上げになっていた事業承継の要望に対し、「事業承継ブック」や県域担い手サポートセンターが開始した「経営相談・管理サポート体制強化事業」を活用し、着実に担い手の事業承継を進めている。畜産の産地維持に向けて、TACが初期対応の窓口となり、関係部門・関係機関と連携し、専門部署の設置を検討するなど、JA全体で事業承継に取り組んでいることが特徴だ。担い手も「事業承継ブックを活用し、今後の経営やライフプランについて、具体的な方向性を決めることができた」と話すなど、取り組みを高く評価している。

JA特別表彰（事業承継部門）
島根県　JAしまね

営農技術から相続まで多岐にわたる事業承継をJAの総合力を発揮して支援するため、業務フローや役割分担を明確にして関係各部署が連携。若手農業者に加え、集落営農組織にも対応している。集落営農組織には、「事業承継ブック」を応用してJA独自にシートを作成して活用しているなど、事業承継を通した信頼関係の更なる強化とJAの総合力を生かした体制づくりが評価された。担い手からは「日ごろ言えないことを言える場を作ってくれた」「将来に対する不安払拭やモチベーションの向上につながっている」との声があがり、信頼関係が強化されている。

JAグループ TACパワーアップ大会 2017

TACパワーアップ大会2017を開催!!

TAC誕生から10年目の節目に開かれた今年のTACパワーアップ大会は、担い手を訪問して意見・要望を聞くTACの原点を踏まえながら、担い手の経営改善と地域農業の発展に向けて活動のさらなる進化を誓う、活気あふれる大会となりました。

JA全農は11月16、17日の両日、「TACパワーアップ大会2017」を横浜市で開催しました。地域農業の担い手に出向くJA担当者（愛称TAC＝タック）の全国大会として開かれ、今年で10回目。約600人が参加して全国の事例を共有し、TACの活動強化を誓いました。優れた活動を行うJAやTACの表彰と事例発表、基調講演や大会宣言の採択を行った他、金融部門との連携強化や若手農業者・農業法人への対応強化、事業承継など5つのテーマで分科会を開催しました。

大会では全農の長澤豊会長が、TACの活動が10年の節目を迎え「今や生産振興や経営相談、新規就農や事業承継の支援など、担い手の要望・課題にJAの総合力で応える取り組みは、情勢が変化する中で、現場の声へのしなやかな対応が大事」と指摘し、さらなる進化を期待しました。全農も「TAC活動のレベルアップを支援するので、全国の担い手のために頑張ろう」と呼びかけました。

来賓としてあいさつした農林水産省農林水産技術会議の別所智博事務局長は「TACが担い手農業者のニーズをくみとり、新技術の紹介・提案をし、フォローアップも行っていることを、心強く感じている」と述べました。JA全青協の飯野芳彦会長も「営農改革なくして農協改革なし。農業者とTACが一歩ずつ課題を解決し、新たな発見をしともに進んでいくべき、未来志向の考えで一緒にやっていきたい」と訴えました。

基調講演は、全農の神出元一理事長が「TAC活動10年間の成果と更なる飛躍に向けて」と題して講演。担い手の意見・要望を聞き取ることから始まったTAC活動が、担い手の経営改善や地域農業の課題解決に結びつくようになったことを強調しました。その上でTACには「担い手の経営をコーディネートし、JAの自己改革を進めるエンジン」になるよう呼びかけ、生販のマッチングやJA化のサポート、労働力支援、ICTやAIの活用などで「全農も全力で支援する」と伝えました。

また、全農の戸井和久チーフオフィサーは「生販バリューチェーンに向けて～TAC活動に期待すること」について講演し、今年9月に設置した「営業開発部」の狙いを説明。「生産から販売までつなげた体制を築いていくために、生産現場に近いTACと取引先・消費者に近い営業開発部がニーズ・情報を共有することが非常に大切」と訴えました。

TACは2016年度末の実績で、全国264JA・1741人が約8万1000人の担い手を訪問。約66万2700件の訪問・面談活動を実施しています。大会では、JAグループ創造的自己改革の一環として、①TACの原点を踏まえ、新たな方向性を見出します②JAグループ内外に認められるTACを目指します③TACが起点となったJAグループの総合力発揮で、次世代へ農業をつなぎます――とする大会宣言を採択しました。

自己改革の実践へ協力を呼びかけたJA全青協の飯野会長

TACに期待する農林水産省農林水産技術会議の別所事務局長

TACの活動への支援を強調した全農の長澤会長

基調講演した全農の神出理事長

全農会長賞の表彰を受ける福岡県JAふくおか八女の久保薫組合長

約600人が集ったTACパワーアップ大会2017

大会宣言を力強く読み上げる岡山県JA岡山の中江智子さん

全農会長賞を受賞し事例発表するJAふくおか八女の津城正栄課長

参加者による分科会

参加者がテーマごとに5つの分科会で議論しました。

分科会①　金融部門との連携促進

生産拡大や設備投資などで農業法人の資金ニーズが高まる中、TACと担い手金融リーダーによる担い手法人への支援策について検討しました。班ごとに、部門間連携をどう進めるべきか、はばむ要因は何かなどを討議。取り組みやすい実践プランについても議論しました。具体的な連携策として、TAC・金融担当者の同行訪問や定期的な情報交換の他、担い手の要望に基づいて経営分析をしたり、6次産業化の事業計画づくりを支援したりすることなどが発表されました。

分科会②　事業承継

親から子へ農業経営を引き継ぐ「事業承継」でしっかりと後継者をサポートできれば、次世代との強固な信頼関係が構築できます。経営や資産状況の詳細などを把握することで、担い手ニーズに沿った提案ができる他、定期的・継続的な訪問にもつながります。分科会では若手農業者が自らの事業承継の経験を講演。また、TACが若手農業者に提案するロールプレイングも実施し、TACから担い手（後継者）へ「事業承継ブック」の活用を提案する場面を演習しました。

分科会③　6次産業化

地域特産品の加工、流通、販売などで、JAの既存事業にはない取り組みが求められています。担い手の所得向上や地域振興・活性化のためにTACが取り組む6次産業化について議論しました。参加者は、消費者のニーズを重視する「マーケットイン」の考え方で現状の課題と具体的な解決策を話し合い、発表しました。「規格外品の有効活用」「農業と観光の連携」など、さまざまな実践的なアイデアが生まれ、各地の提案活動に生かしていくことを確認しました。

分科会④　若手農業者への対応強化

若手農業者とJAの相互理解を深めるための課題や解決策を協議し、実践のためのアクションプランを作成しました。TACが若手農業者を①一緒に取り組むことを見つける「接点づくり」②個別の課題を把握する「相互理解度向上」――の3ステップに分けて議論。JA全青協の大山雅行副会長は「組合員が求める事業を展開するには、TACが不可欠」と話し、全国農業青年クラブ連絡協議会の首藤元嘉理事も「若手農業者は」相談できる人を必要としている。きっかけを作り、互いの信頼関係を構築しよう」と述べました。

分科会⑤　農業法人への対応強化

農業法人の経営課題の相談は税理士・会計士などが多く、JAはその上位となれていないのが実情です。分科会では茨城県ノ宮陸から法人対応の先進事例を学び、その後、農業法人の経営者から課題を聞き、解決策を提案しました。小ネギを生産・販売する衛伊万里グリーンファーム（佐賀県伊万里市）の前田清浩代表取締役は、「お互い連携しあう気持ちを持ちながら、話し合う機会を持つことが大事」と講評し、TACが法人へ積極的に訪問するよう呼びかけました。

TAC表彰 受賞者

▶▶▶ 若手農業者や農業法人への提案内容に新規性、創造性があり、その成果の優れたTACを表彰しました。

北海道　JAあさひかわ
営農企画部 米穀農産課 調査役
上原 由大氏

担い手と連携し「ゆめぴりか」で3つの表彰受賞

JAの独自商品を求める声に対し、農業法人や担い手、JAが一体となり、北海道を代表するトップブランド米「ゆめぴりか」を使った甘酒を開発した。6次産業化コンテストや商談会に積極的に参加し、販路拡大に寄与。JAあさひかわ特別栽培米部会を発足させて米の販売力を強化し、部会員の情報交換・意思統一も図っている。

群馬県　JAはぐくみ
営農部 営農販売課 係長
下平 将成氏

系統外出荷団体へのTAC活動

関係が希薄だった系統外の出荷団体との接点づくりに向け、信頼関係の構築を第一とした訪問活動を実施。関係機関と連携した研修会の開催や、農地、空き家、融資について情報提供と提案を行った結果、「TACを通じてJAのイメージが変わった」と高く評価された。信頼を得たことで購買事業の利用やJA出荷にも結びつけた。

新潟県　JA越後中央
担い手支援班 調査役
遠山 哲志氏

水稲地域での園芸品目導入による経営の安定化と所得確保 それに伴う支援力強化と部門間連携の取り組み

園芸品目の新規導入・拡大を望む水稲中心の農業法人に対し、SNSを活用し営農指導員などの関係者とリアルタイムで情報共有できる仕組みを構築。JA内の連携強化や指導力向上にもつなげた。園芸品目の面積拡大のため、JAでの育苗の請負や集出荷体制の構築、農閑期の作付品目の提案を行い、担い手の所得向上に寄与した。

石川県　JA石川かほく
営農経済部 営農企画課 主任
櫻井 和幸氏

管内園芸産地の経営承継に向けた担い手対応

事業承継を含めた後継者の就農支援を行い、親子間の意見交換の場の設定や税務、経営面での相談に対応した。また、生産資材コスト低減には早期予約会注文、低コスト資材の提案やタブレット端末を活用した情報提供を行い、担い手の満足度を向上させた他、地域の特産品「紋平柿」の産地育成にも取り組み、生産意欲を高めている。

愛知県　JAあいち豊田
営農部 営農資材課
永田 英徳氏

施設有効活用と いちご苗生産

収入確保を求める施設花き生産者に、施設が空いている期間を活用したイチゴ苗の生産を提案。初めて栽培する担い手の不安を払拭するため関係部門・関係機関と連携して支援し、「取り組みを通じJAの組織連携のよさが伝わった」と評価された。JAグループの総合力を活かして農家の所得向上を実現し、新たな経営モデルを築いた。

滋賀県　JAグリーン近江
営農事業部 営農振興課
和田 洋氏

集落営農組織グループによるGLOBAL G.A.P.の取り組み

農作業従事者の安全確保、若手農業後継者への農作業の円滑な引き継ぎ、法人間連携などを求める集落営農型の4法人に対し、これらの課題を解決するためグローバルGAPの団体認証を提案した。集落営農組織のグループとしては、国内初の取得となり、担い手の課題解決だけでなく、法人構成員とのつながりや信頼関係が強化された。

岡山県　JA岡山
備南営農センター 主事補
中江 智子氏

JA岡山管内におけるICTを活用した取り組みについて

父親が倒れて事業承継が十分にできず、圃場把握が課題だった担い手に対し、ICTを活用した解決策を提案。担い手と一体になり、丁寧に取り組みを進め、正しい圃場を把握し、営農計画書への記載ができるようになった結果、交付金を受け取れるようになった。担い手が農業経営を見直すことができ、信頼関係も構築されている。

福岡県　JAふくおか八女
営農指導部 農業振興課
井上 哲志氏

地域農業の未来を見据えて ～今を生き抜く～

農業法人の経営安定化に向けた支援で、JAの各地区センターと連携。経営ビジョンの意向調査を行い、意見・要望を整理し、それぞれの課題に対し周年栽培や労災保険、土壌改善、融資情報の提供など、幅広い提案を行った。法人の後継者確保のため、周年雇用ができる体系づくりに取り組み、地域農業を守ることに寄与した。

TAC（タック）とは、『地域農業の担い手に出向くJA担当者』の全国統一愛称です。

TACの役割や活動状況については、TACのホームページやFacebookをご覧ください。TACのLINEスタンプもできました。若手農業者とTACのコミュニケーションツールとしお使い下さい。

TACのホームページ

TACのFacebook

TACのLINEスタンプ